

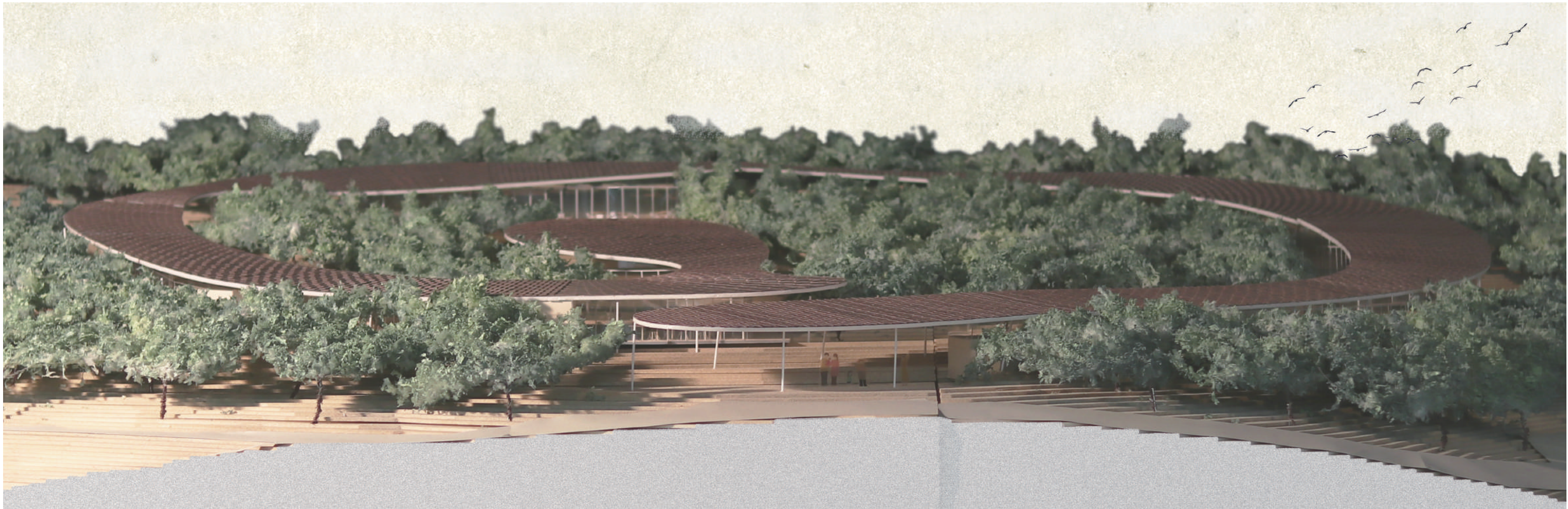


梨畑幼稚園

日々の中で、ふと幼少期の体験を思い出すことがある。
今も体のどこかで覚えている、子供の頃の体験・感覚というのは、
日々の生活に感動や彩りを与えてくれているのではないだろうか。

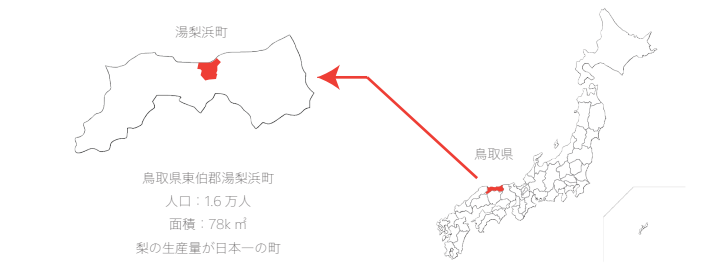
自分の子供の頃の体験・感覚を辿りながら、地元鳥取県の梨畑に、
幼稚園の設計を行った。

この地で育つ子供の幼少期の記憶が、豊かで温もりを持つものに
なるような、環境としての新たな幼稚園を提案する。



敷地について

敷地は私の地元でもある鳥取県東伯郡湯梨浜町。地名に梨の文字が含まれていることからわかるように、梨の名産地である。豊かな自然環境に恵まれた地で、行政は子育て支援に力を入れていることこともあり、子育て世代の移住も多い。梨畑の中に幼稚園を計画する。
私自身、子供の頃の体験・感覚として強く残っているものは、この梨畑のものである。枝ぶりが地面から低いところから横に伸びる梨の樹の下の空間は包まれるような空間であり、土は柔らかで、葉がつくる木漏れ日に誘われているようであった。斜面の上からは、梨棚と湖を一度に眺めることができ、この風景は町民の誇りでもある。



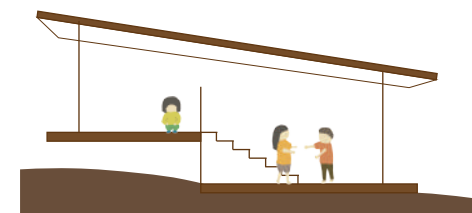
梨の木と断面空間の関係性



- 1、オールバック法という斜面地特有の梨の栽培方法。
梨棚の下には高さ1.5～2.6m ぐらいの枝葉に覆われた空間できる。



- 2、園舎の屋根を地面から2.4m 上げた高さとする。葉にも日が当たる。
梨の木の下の空間を建築に引き込み、建築は道や留まる場にもなる。



- 3、床レベルに変化をつけることで、開けていたり、こもっていたり、室内にも子どもの活動にあった多様な場が生まれる。

梨畑と子どもたちの一年



梨畑の一年の変化のスピードと、幼児期の子どもたちの成長のスピードは似ているものを感じる。1日1日は、ささやかだが、季節の変化に気づいた時、子どもたちの成長の早さにハッとさせられる。梨の木と、子どもたちは、見守られながら育ってゆく。

畑の運営と地域交流

梨の栽培は農家の方が主軸になって行うこととする。幼児や保護者などの幼稚園に関わる大人は、農家の方の指導を受けながら、栽培に参加していく。

梨栽培することに留まらず、風景の共有し、関係性を築く場所になっていくことを期待している。

